明治期以降の心理学者786名の経歴、研究業績を
詳細に記した本邦初の事典。

日本
心理学者事典

大泉　溥 編纂

クレス出版

発刊のことば

日本福祉大学教授
編纂者　大泉　溥

心理学のあり方を反省し、歴史的に見直そうとする気運が最近急速に高まってきているが、それに資する心理学史の研究がわが国ではまだ十分に展開されているとは言い難いのが実情ではなかろうか。

本書は、日本心理学史研究の基礎作業として不可欠な人物誌的史料を集めて整理し史実として確定することに意を注ぐ形で編纂した人名事典である。すなわち、明治以降における欧米心理学の移入と変容、研究の定着化と啓蒙・普及、正統と異端、新分野の開拓と展開、学問としての進歩と変革などをになった人びと786名について、それぞれの経歴、研究業績（著書・翻訳書・論文・テスト）、参考文献（履歴・業績目録・回想記・追悼文・伝記・研究文献など）をまとめ、編纂で直接に参照した関係資料をも付記したものである。

この事典の編纂においてとくに留意したことは、何よりもまず、日本における近代科学としての心理学の形成・発展をどのように特徴づけて、それに寄与した人物が誰なのかを確定することであった。明治教学として形成された心理学とその後の展開には、教育関係者や宗教家など、さまざまな人たちがいろいろな立場から関与していた。精神哲学からヴント流の実験心理学に進んだ後には行動主義やゲシタルト心理学、さらには精神分析学や唯物論心理学など幾つもの分流が生まれている。そうした拡がりや学界に一時的に関与した人たちをどこまで収録するのか、また時代的制約のため十分に開花しえなかった「未発の契機」をどう扱うのか、さらには時代の要請と学問の内的必要が個々人の研究においてどのように具体化されていたと見るのか……。こうしたさまざまな思いを入手しえた資料の中から析出して理解可能なものにしていくためには、それなりの編纂上の工夫が必要である。したがって、本書ではそれぞれの時期において学界をリードしていた主要な心理学者を多面的に把握できるように努めるとともに、対象範囲を拡げて調査した結果をもとに収録人物を意識的に選定して、心理学における役割や業績に関する資料をさらに吟味し丹念な事実の記載となるように心掛けた。

もう一つ留意したことは、戦時体制下や戦後復興期の心理学のあり方、さらには高度成長期以降における心理学諸分野の開拓と展開をになった心理学者たちについても収録することにした点である。このことは必然的に現在も活躍中の方々や近年逝去された方々をも含むことになり、編纂作業としては歴史的人物の調査とは別な配慮とエネルギーを要するものであった。幸いにも、かなり多数の収録者ご本人やご遺族の方々との連絡が取れ、掲載の了承と原稿の校閲や資料の提供などの協力が得られたことによって、記載内容に正確さを与え、また貴重なデータを組み込むことができた。

さらに、本書の特徴として、記載内容の首尾一貫性をあげることができるであろう。従来の各種人名事典などではその経歴や業績などの記述が執筆者多数のため、まちまちなことが少なくなかった。そうした点の克服は個人作業による編纂ということで対応することができたが、他面では資料調査の限界があった。この点についても10年余の歳月をかけての調査と関係機関や心理学史に関心をもつ多くの方々の積極的な協力が得られたことで相当に打開できたと思う。このようにして、本書は基本的事項を可能な限りきちんと記述した首尾一貫性のある『日本心理学者事典』となるように努めたものである。

本書が、日本の心理学を歴史的に理解するために役立ち、日本心理学史の研究に便宜となり、さらには日本の学問として不可欠な反省的思考の発達にいささかでも寄与しうることになれば幸いである。

●収録について

①明治期以降の日本における心理学の移入・展開・発展に寄与した人物786名。
（心理学書の著者約2,000名をリストアップし、さらに経歴や研究業績などを調べ、それぞれの時期に重要な役割を果した心理学者を選んだ。）
②哲学・宗教・教育・医学・動物学・社会学・経済学・法律学・文学・芸術など関連領域の専攻者で心理学の形成に関与した人たちも収録。

●人物項目の配列と記事掲載

①人名読みの五十音順、見出しの氏名は漢字表記として「よみがな」をつけ、（　）内に生年～没年を西暦で示し、専門領域や研究課題の類別も記す。
②【経歴】では、学歴と職歴を中心とし、心理学専攻者の場合には、卒業記事の末尾に（　）で卒論題目を入れる。
③【学会など】、【学位】、【賞】の項目も設けた。
④【著作】では、《著作集》、《単著》、《共著》、《編著》（監修を含む）、《翻訳》、《論文》、《テスト》に分けて示す。
⑤【参考文献】は、回想記、自伝、年譜、著作目録、追悼文、伝記、研究文献を記載。
⑥校閲を約350名の収録者本人または遺族（主に著作権継承者）に受けた正確な情報。
⑦約470名の肖像写真（顔写真を基本）を掲載。

●付録と索引

①近代日本の各大学（旧制）における心理学教育体制の変遷。
②近代日本の心理学者の論考を掲載していた雑誌（1950年代まで）83誌の解説。
心理学専門雑誌23誌　総合雑誌・哲学医学関係雑誌11誌
教育関係雑誌35誌　育児・児童保護・社会事業関係雑誌14誌
③ローマ字表記による氏名索引（アルファベット順）を巻末に付ける。

社（1966）。③『現代物故者辞典1994～1996』日外アソシエーツ（1997）。
《研究者総覧など》　①『専門別大学研究者・研究題目総覧　1961年版』。②『専門別大学研究者・研究題目総覧　1971年版』。③『著作権台帳・第8版』（1959）。④『著作権台帳・第21版』（1991）。⑤『著作権台帳・第25版』（1999）。
《名簿》　①応用心理学会編『日本心理学者名簿　昭和十年』。②日本心理学会編『会員名簿・昭和25年』。③日本心理学会編『会員録・昭和29年』。④『日本心理学会会員名簿』『心理学研究』第7巻6輯（1932）。⑤日本心理学会編『会員名簿・昭和14年』。⑥東京帝国大学文学部学友会『卒業生名簿』（昭和11年1月発行）。
《文献目録》　①『邦文心理学文献目録稿』国立国会図書館支部上野図書館（1953）。②『日本著者名総目録27/44』日外アソシエーツ（1991）。③『日本著者名総目録45/47』日外アソシエーツ（1990）。④『日本著者名総目録48/76』日外アソシエーツ（1989）。⑤『NACSIS Webcat』http://webcat.nacsis.ac.jp。⑥国立国会図書館『Web-OPAC』http://webopac2.ndl.go.jp。

内田　勇三郎　うちだ・ゆうざぶろう　（1894～1966）

内田クレペリン精神作業検査法の開発。

内田純平氏提供（1965年撮影）

【経歴】　1894（明治27）年12月15日、東京銀座生まれ。第六高等学校（岡山）卒。1921（大正10）年7月、東京帝国大学文学部心理学科を卒業（卒論「左利の遺伝」）。財団法人協調会産業能率研究所に勤務。1923（大正12）年、東京府立松沢病院嘱託となり、心理室創設に参加して精神病者の心理検査にとりくむ。1925（大正14）年、松沢病院を辞して、熊本の第五高等学校講師となり、まもなく同校教授に就任。1928（昭和3）年、第五高等学校を辞して、東京に戻り、文部省体育研究所で心理学的調査に従事する一方、法政大学講師をつとめる（1932年ないし1933年まで）。この頃、小峰病院心理室、前田眼科等でも臨床心理学的研究を行う。1931（昭和6）年、早稲田大学講師となり、同大学心理学研究室の整備充実に尽力。1939（昭和14）年、早稲田大学を辞して、東京府学務部職業課に入り、傷痍軍人の職業保護事業に従事。戦後は1947（昭和22）年頃から日本・精神技術研究所を主宰して、内田クレペリン精神検査の普及に尽力。また、日本大学、埼玉大学、日本社会事業大学などで心理学を講じ、最後に日本女子大学付属児童研究所の主事を勤めた。1966（昭和41）年11年18日、脳溢血のため逝去。享年71歳。
【学位】　文学博士（1962「臨床心理学的一方法としての内田クレペリン精神検査」大阪大学）。
【学会など】　1954年10月に『曲線研究』誌を創刊（～第42号 1970.7.）。
【著作】
《著書》　『素質型と其の心理学的診断』三省堂（1930）。
《論文》　「左利の遺伝（1）（2）」『東洋学芸雑誌』第38巻 479号・482号（1921）、

「産業能率からみた女工の労働時間」『心理研究』第22巻（1922）、「酒精の心理的研究（1）（2）」『心理研究』第23巻～24巻（1923）、三宅鐵一と共著「記憶に関する臨床的実験成績」『神経学雑誌』第23巻～24巻（1924）、三宅鐵一らと共著「聯合診断の臨床的価値」『神経学雑誌』第24巻9号～10号（1925）、三宅鐵一と共著「余等ノ智能検査法、コレヲ常人並ビニ精神薄弱者ニ用ヒタル成績」『神経学雑誌』第26巻4号（1926）、「体格と性質」『脳』第2巻12号（1927）～第5巻3号（1931断続的に計12回掲載）、「低能児の心理的研究－痴愚の精神作業」『心理学論文集』第1輯（1928）、「精神発達に応ずる反応時間の変化」『神経学雑誌』第30巻7号（1929）、「麻痺性痴呆症の精神作業曲線」『神経学雑誌』第30巻7号（1929）、「精神発達に応ずる転導反応時間の変化」『児童研究所紀要』第12巻（1929）、「〔紹介〕素質問題に関する実験心理学の貢献（1）～（4）」『教育心理研究』第4巻4号（1929）～第5巻4号（1930）、「精神作業の反復による変化経路」『児童研究所紀要』第13巻（1930）、松井三雄らと共著「素質の実験類型心理学的研究（1）～（2）」『教育心理研究』第5巻5号～6号（1930）、「精神作業並びに作業時における情意変化の実験的研究」『神経学雑誌』第33巻（1931）、「精神の自己診断表」『応用心理研究』第1巻1号（1932）、衣笠慎之助と共著「児童に於ける数型現象（数型、共感覚及直観像の関係）」『児童研究所紀要』第14巻（1932）、「執務作業ブリノ科学的研究」『産業能率』第6巻1号（1933）、「乖離性素質者の作業障碍の実験的研究」『体育研究』第1巻1号（1933）、「乖離性素質者の精神運動性に関する実験的研究」『体育研究』第1巻1号（1933）、戸川らと共著「実験的意志障碍に於ける精神作業の変化」『体育研究』第3巻2号（1935）、戸川らと共著「実験的精神障碍(1)」『体育研究』第3巻3号（1935）、戸川らと共著「実験的精神障碍(2)」『体育研究』第3巻4号（1936）、戸川らと共著「実験的精神障碍(3)」『体育研究』第3巻5号（1936）、戸川らと共著「作業障碍の実験的研究」『体育研究』第4巻4号（1937）、「メスカリン中毒における精神異常」『東西医学』第4巻10号（1937）、赤松らと共著「幻覚を特徴とせる乖離性性格者の一臨床例」『早稲田大学哲学年誌』（1938）、赤松らと共著「問題児童の精神作業」『早稲田大学哲学年誌』第8巻（1938）、篠原らと共著「頭部外傷者の精神作業」『体育研究』第8巻5号～6号（1941）。
《テスト》　『実用クレペリン内田作業素質検査法手引』日本・精神技術研究所（1950　訂補6版1952）、『新適性検査法－内田クレペリン精神検査－』日刊工業新聞社（1957）、監修（小河亀彦著）『内田クレペリン精神検査法　採用・配置・安全管理のための適性検査』同文館（1965）。
【参考文献】
①「内田勇三郎氏追悼記」『心理学研究』第38巻1号（1967）pp.53～55。② Seiichi Kurahashi et als. Development of the “Uchida-Kraepelin Psychodiagnostic Test” in Japan. *Psychologia*, Vol.1 No.2　(1957)。③戸川行男監修『精神作業検査要覧－

育』と『*American Journal of Psychology*』に掲載の論文をまとめたもので、「略歴年譜」と「追悼録」がある（澤柳政太郎の追悼文はとくに重要）。②守内喜一郎「嗚呼岡部先生が永遠に逝かれました」『学校教育』第109号（1922）。③「広島高等師範学校教育研究会沿革」『学校教育』第1巻1号（1924）pp.80～87。④「教育科（1）小史 3.岡部為吉（明44～大8）」『広島高等師範学校創立八十周年記念　追懐』同記念事業会発行（1982）pp. 402～403。⑤佐藤達哉ほか編『通史日本の心理学』北大路書房（1997）。
【参照資料】
《研究者総覧など》　①手塚晃ほか編『幕末明治海外渡航者総覧』柏書房（1992）。
《名簿》　①応用心理学会編『日本心理学者名簿　昭和十年』。②「心理学研究会会員名簿」『心理研究』第4巻6冊（通巻24号　1913）。③東京帝国大学文学部学友会編『卒業生名簿』（昭和11年1月発行）。④東京帝国大学文科大学心理学教室編『心理学学友一覧』（1916）。
《文献目録》　①『日本著者名総目録27/44』日外アソシエーツ（1991）。②『日本著者名総目録45/47』日外アソシエーツ（1990）。
《その他》　①「学位受領者」『京都大学文学部五十年史』（1956）。②広島文理科大学・広島高等師範学校『創立四十年史』広島文理科大学（1942）

岡部　弥太郎　おかべ・やたろう　（1894～1967）

教育心理学、教育測定・教育評価。

『教育心理学研究』第15巻2号（1967）より

【経歴】　1894（明治27）年6月20日、長野県上田市生まれ（本籍は北佐久郡春日村）。第一高等学校（東京）卒。1919（大正8）年、東京帝国大学文科大学哲学科心理学専修を卒業して（卒論「メロディーについて」）、東京帝国大学教育学研究室の助手となる。1925（大正14）年、東京府少年職業相談所嘱託を兼務（～1938）。1930（昭和5）年、立教大学文学部教授（心理学と教育学を担当）。1935（昭和10）年、東京帝国大学文学部助教授（教育学担当）。1938（昭和13）年、愛育研究所教養部長を兼務（～1946）。1948（昭和23）年、東京大学文学部教授（教育心理学担当）。1950（昭和25）年、東京大学教育学部創設で教育心理学科の主任教授。1955（昭和30）年、東京大学を停年退職。同年、国際基督教大学教授。1965（昭和40）年、国際基督教大学を定年退職。同年、上智大学文学部教授。1967（昭和42）年3月14日、脳溢血のため逝去。享年72歳。
【学会など】　日本教育心理学協会初代理事長（1952～1957）。日本心理学会理事（1965～1967）。日本応用心理学会会長。日本教育学会理事。教育大学協会副会長。
【賞】　勲三等旭日中綬章（1966年11月）。

【著作】
《単著》　『小月他3校、学校調査』東京帝国大学教育学研究室（1922）、『教育測定法』教育研究会（1923）、『遺児の教育』、『自叙伝の研究と自叙伝による研究』ＩＣＵ教育研究 No.2（1955）。
《編著》　編著『教育心理学』東洋書館（1951）、澤田慶輔と共編『教育心理学』東京大学出版会（1955　新版1965）、監修『教育評価事典』国土社（1955）。
《論文》　「記憶範囲の変化性」『心理研究』第17巻（通巻102号　1920）、「身心発達の相関に関する最近の二研究」『心理研究』第27巻（通巻157号　1925）、「重相関及び重回帰方程式による一組のテストの合理的組織」『心理学研究』第1巻5輯（1926）、「個性調査」『岩波講座教育科学・第1冊』岩波書店（1931）、「入学試験の問題（シンポジウム提案）」『岩波講座教育科学・第16冊』岩波書店（1933）、「教育指導と職業指導」『岩波講座教育科学・第17冊』岩波書店（1932）、「工人に於ける実際的性格類型検出の試み」『心理学研究』第7巻（1932）、淡路圓治郎と共著「向性検査と向性指数　上中下」『心理学研究』第7巻1輯（1932）～第8巻3輯（1933）、「学校児童の心理と教育」『子供の心の教育』日本両親再教育協会（1932）、「教育測定学」「ニールの学校」『岩波講座教育科学・第20冊』岩波書店（1933）、「職業指導」『教育学辞典・第2巻』岩波書店（1937）、「教育測定」『現代心理学10．教育心理学Ⅰ』河出書房（1943）、「学習の心理」東京大学教育学教室編『講座学校教育6．学習指導の方法』目黒書店（1950）、「教育と心理学」「心理学講座5．学習心理」中山書店（1954）、「アメリカにおける適性検査の利用状況」『心理学講座9．心理測定』中山書店（1954）、「職業指導の原理および技術」『職業指導講座3．技術篇Ⅰ』中山書店（1955）。
【参考文献】
①「岡部弥太郎教授略歴・主著」国際基督教大学『教育研究』第12号（1967）。②星野命「岡部先生の個人主義」『教育研究』第12号（1967）。③「岡部弥太郎氏追悼記」『教育心理学研究』第15巻2号（1967）pp.119～122 。④藤原喜代蔵『明治大正昭和教育思想学説人物史　第4巻』日本経国社（1944）p.603 。⑤澤田慶輔「岡部弥太郎」日本の心理学刊行委員会編『日本の心理学』日本文化科学社（1982）。
【参照資料】
《人名事典》　①『現代日本人名事典』平凡社（1955）。②『日本人名大事典』平凡社（1979）。③『現代人名情報事典』平凡社（1987）。④為藤五郎編『現代教育家評伝』文化書房（1936）。⑤『新訂増補　人物レファレンス事典』日外アソシエーツ（2000）。⑥「ＣＤ現代日本人名録物故者編 1901-2000」日外アソシエーツ（2001）。⑦『日本人名大辞典』講談社（2001）。
《研究者総覧など》　①「専門別大学研究者・研究題目総覧　1961年版」。②『著作権台帳・第25版』（1999）。
《名簿》　①応用心理学会編『日本心理学者名簿　昭和十年』。②日本心理学会編『会員名簿・昭和25年』。③日本心理学会編『会員録・昭和29年』。④『日本心理学会会員名簿』『心理学研究』第7巻6輯（1932）。⑤日本心理学会編『会員名簿・昭和14年』。⑥東京帝国大学文学部学友会

日本心理学者事典

大泉　溥　編纂

- A５判／上製函入／クロス装
- 本文総1,320頁／クリーム中性紙使用
- 2003年２月末日刊行
- 定価本体9,500円（税別）
- ISBN4-87733-171-9　C3511

編纂者紹介

大泉　溥（おおいずみ　ひろし）

略歴　1940年12月、北海道遠軽町生まれ。1960年、東北大学教育学部特殊教育学科入学。1964年、同学部を卒業して、同大学院に進学。1968年、東北大学大学院教育学研究科博士課程心身欠陥学専攻中退。同年、日本福祉大学社会福祉学部助手。翌年、専任講師。1979年、助教授。1985年、教授。

現在　日本福祉大学社会福祉学部教授・障害学生支援センター長。

心理学史関係の著作

「施設児童の『発達障害』研究の歴史的変遷－ホスピタリズム研究の成立過程をめぐって」『日本福祉大学研究紀要』第27号（1975）、「児童心理学の歴史」心理科学研究会編『児童心理学試論』三和書房（1975）、「障害児施設の実践にかかわる研究の科学性と実践性の問題をめぐって」『日本福祉大学研究紀要』第36号（1978）、「日本の教育心理学」心理科学研究会編『教育心理学試論』三和書房（1979）、「近代日本における教育心理学と『輸入科学』の問題」『心理科学』第４巻１号（1982）、「近代日本の心理学に関する問題史的考察(1)」『日本福祉大学研究紀要』第71号（1987）、共編著『日本心理学史の研究』法政出版（1998）、監修『文献選集　教育と保護の心理学　全48巻（復刻版）』クレス出版（1996～2000）およびその『別冊解題』全５冊　クレス出版（1996～2001）。

障害児教育および障害者福祉関係の著書

『障害者の生活と教育』民衆社（1981）、『障害者福祉実践論』ミネルヴァ書房（1989）、『障害児の生活教育』法政出版（1994）、『生活実践の記録をつくる』寄宿舎教育研究会（1999）。その他、論文多数。

文献選集 教育と保護の心理学　全四期48巻　大泉　溥 監修・解題

心理学史の立場から近代日本の教育や社会的保護（福祉）にかかわる重要な諸労作を精選して編集。明治大正期（欧米心理学の受容と実践的模索）、昭和戦前戦中期（自立と試練）、昭和戦後初期（反省と再出発）の三つの時期を代表する著作や論文、その他に専門雑誌・研究報告書を収録。

- 第Ⅰ期全12巻　明治大正期　揃定価249,000円（税別）
  - 第１回配本　第１巻～第６巻　揃定価124,000円（税別）　ISBN4-87733-020-8
  - 第２回配本　第７巻～第12巻　揃定価125,000円（税別）　ISBN4-87733-021-6
- 第Ⅱ期全12巻　昭和戦前戦中期　揃定価245,000円（税別）
  - 第１回配本　第１巻～第６巻　揃定価126,000円（税別）　ISBN4-87733-022-4
  - 第２回配本　第７巻～第12巻　揃定価119,000円（税別）　ISBN4-87733-023-2
- 第Ⅲ期全12巻　専門雑誌・研究紀要　揃定価250,000円（税別）
  - 第１回配本　第１巻～第６巻　揃定価120,000円（税別）　ISBN4-87733-052-6
  - 第２回配本　第７巻～第12巻　揃定価130,000円（税別）　ISBN4-87733-053-4
- 第Ⅳ期全12巻　昭和戦後初期　揃定価252,000円（税別）
  - 第１回配本　第１巻～第６巻　揃定価127,000円（税別）　ISBN4-87733-072-0
  - 第２回配本　第７巻～第12巻　揃定価125,000円（税別）　ISBN4-87733-073-9
- 全四期48巻　揃定価996,000円（税別）

注文書	書店名〔取次番線〕	部	大泉　溥 編纂 日本心理学者事典　定価9,500円（税別）
			株式会社クレス出版　〒103-0001　東京都中央区日本橋小伝馬町14－5　メローナ日本橋 ☎(03)3808-1821　FAX(03)3808-1822　http://www.kress-jp.com/